

2025年2月4日(火)17:00~18:00
2025年3月期第3四半期 決算説明会

【2025年3月期 第3四半期決算公表(P0)】

CFOの重田です。

本日は、お忙しい中ご参加頂き、誠に有難うございます。

まず私から、第3四半期の経営成績及び通期予想についてご説明します。

その後、経理部長の栗原より、決算の詳細についてご説明します。

当四半期の世界経済は緩やかに回復しましたが、米国新政権の政策動向もあり、経営環境は引き続き不確定要素が多い状況です。当社はこのような環境下においても、成長投資や資産リサイクル、ミドルゲームの推進を通じ、事業ポートフォリオ良質化による足元の収益基盤強化を進め、また同時に将来の成長に向けた布石を打っています。

【経営成績サマリー(P4)】

当第3四半期の経営成績サマリーについてご説明します。

当第3四半期においても、グローバルかつ幅広い産業にまたがる事業ポートフォリオを通じ、収益機会を着実に捉えることができました。結果として、基礎営業キャッシュ・フローは7,935億円の獲得、四半期利益は6,522億円となり、想定通りの進捗と評価しています。この進捗を踏まえ、通期業績予想は基礎営業キャッシュ・フロー1兆円、純利益9,200億円を据え置きます。

また、現在実施している2月末までを期限とする自己株式取得は順調に進捗しています。

【2025年3月期通期 従来予想に対する進捗率と修正予想(基礎営業キャッシュ・フロー)(P5)】

基礎営業キャッシュ・フローの通期予想をご説明します。

一部、商品市況の軟調な推移に加え、不透明なマクロ環境が継続したものの、金属資源、エネルギー、機械・インフラ、化学品の各セグメントは従来予想に対し80%超と順調に進捗しており、全社では1兆円を達成する見込みです。

【2025年3月期通期 従来予想に対する進捗率と修正予想(当期/第3四半期累計利益)(P6)】

当期利益の通期予想をご説明します。

金属資源、機械・インフラの好調を背景に、全体として順調な進捗となりました。第4四半期に化学品、生活産業セグメントでの資産リサイクル益や、エネルギーの季節性収益を見込み、従来予想の9,200億円から変更ありません。

【キャッシュ・フロー・アロケーション(実績)(P7)】

キャッシュ・フロー・アロケーションの実績についてご説明します。

キャッシュ・インは、基礎営業キャッシュ・フロー7,940億円と、複数の大型案件を含む資産リサイクル4,660億円を合わせて、1兆2,600億円となりました。なお、資産リサイクルによるキャッシュ・インは、2025年3月期も2024年3月期と同規模の5,000億円程度を見込んでいます。

キャッシュ・アウトは、投融資5,370億円と、株主還元4,740億円を合わせて、1兆110億円となりました。

【新規案件の収益貢献開始時期(P8)】

中期経営計画で定めた攻め筋に沿って、早期収益貢献と長期収益基盤の構築に向けた投資の厳選を継続し、新規案件による基礎収益力拡大が順調に進捗しています。

第2四半期決算公表以降、本日までに、インドの金属リサイクル事業MTC、国内の外食向け流通HAVI、インドの鶏事業Sneha(スネハ)への投資を実行し、今期から来期にかけて収益貢献開始を見込みます。なお、HAVIは投資実行後に三井物産サプライチェーン・ソリューションズへ社名を変更しました。

また、ベトナムのBlock Bガス田、インドネシアのタンゲーLNG拡張開発事業、米国の再生可能エネルギー垂直統合事業への投資を開始し、より長期目線で2027年3月期以降の収益貢献を予定しています。

加えて、長年の知見と実績を活かした、希少な大型成長投資案件の実現に向け取り組みを継続しています。

【株主還元方針(P9)】

株主還元方針については、2025年3月期第2四半期決算公表時から変更はありません。

引き続き、成長投資とのバランスを意識した株主還元の拡充を検討して参ります。

以上で、私からの説明を終わらせて頂きます。

続いて経理部長の栗原より、詳細をご説明します。

= 経理部長パート =

【経営成績の詳細(P10)】

経理部長の栗原です。

それでは、当四半期業績の詳細についてご説明します。

【第3四半期基礎営業キャッシュ・フロー(累計実績)セグメント別前年同期比増減要因(P11)】

先ず、基礎営業キャッシュ・フローの前年同期比増減について、セグメント別にご説明します。

当第3四半期の基礎営業キャッシュ・フローは、前年同期比244億円増加の7,935億円の獲得となりました。

金属資源では、鉄鉱石・原料炭価格の下落を主因に、265億円減少の2,848億円の獲得となりました。

エネルギーでは、LNG関連を主因に、1,097億円増加の2,778億円の獲得となりました。

機械・インフラでは、連結子会社の関連化、資産リサイクルに伴う税金増・配当減を主因に、316億円減少の1,155億円の獲得となりました。

化学品では、製造事業、トレーディング業績好調を主因に、243 億円増加の 702 億円の獲得となりました。

鉄鋼製品では、6 億円増加の 44 億円の獲得となりました。

生活産業では、持分法適用会社からの配当減を主因に、208 億円減少の 288 億円の獲得となりました。

次世代・機能推進では、資産リサイクルに伴う税金増を主因に 66 億円減少の 186 億円の獲得となりました。

その他は、税金負担増を主因として 247 億円減少の 66 億円の支出となりました。

【第 3 四半期利益(累計実績)セグメント別前年同期比 増減要因(P12)】

次に、当第 3 四半期利益の前年同期比増減について、セグメント別にご説明します。当第 3 四半期利益は、前年同期比 742 億円減益の 6,522 億円となりました。

金属資源では、鉄鉱石、原料炭価格の下落を主因に、129 億円減益の 2,292 億円の利益となりました。

エネルギーでは、LNG 関連を主因に、281 億円増益の 1,239 億円の利益となりました。

機械・インフラでは、自動車事業での減益や資産リサイクルに伴う取込益減を主因に、242 億円減益の 1,860 億円の利益となりました。

化学品では、前年同期の資産リサイクル益の反動の一方、製造事業、トレーディング業績好調を主因に、32 億円増益の 403 億円の利益となりました。

鉄鋼製品では、14 億円増益の 89 億円の利益となりました。

生活産業では、前年同期のエムサービス公正価値評価益の反動、及びコーヒートレーディングの減益を主因に、532 億円減益の 323 億円の利益となりました。

次世代・機能推進では、国内賃貸用不動産の譲渡を主因に、301 億円増益の 671 億円の利益となりました。

その他は、退職給付制度改定を主因として 467 億円減益の 355 億円の損失となりました。

【第 3 四半期利益(累計実績)要素別増減分析(P13)】

ここでは、当四半期利益を前年同期と比較し、その増減を要素別にまとめています。

「基礎収益力」は、LNG 関連、化学品の増益、新規事業の業績貢献などがあった一方で、前年同期 Vale 追加配当の反動、Penske Truck Leasing、コーヒートレーディングの減益などにより、140 億円の減益となりました。

「資源コスト・数量」は、鉄鉱石や原油・ガスで数量が増益要因となった一方、コスト増を主因に、ネットで 30 億円の減益となりました。

「資産リサイクル」は、パイトン、賃貸用不動産の売却益などを主因に、10 億円の増益となりました。

「市況・為替」は、商品価格の下落により、鉄鉱石で 300 億円、原料炭で 130 億円など、390 億円の減益となりました。為替は、円安を主因として 380 億円の増益となりました。

「評価性/一過性要因」は、退職給付制度改定や Mainstream の減損などを主因に 570 億円の減益となりました。

【通期利益予想 要素別増減分析(P14)】

ここでは、通期業績予想を従来予想と比較し、その増減を要素別にまとめています。

「基礎収益力」は、コーヒートレーディング、鉄鋼製品事業の減益を見込む一方、LNG 関連などの増益もあり、ほぼ横ばいの 20 億円の減益を見込みます。

「資源コスト・数量」は、エネルギー上流事業におけるコスト改善などを主因に、40 億円の増益を見込みます。

「資産リサイクル」は、第 4 四半期にも複数の資産売却を予定しており、150 億円の増益を見込みます。

「市況・為替」は、主に米ドルに対する豪ドル安の影響により、180 億円の増益を見込みます。

「評価性・一過性要因」は、Mainstream の減損やエネルギー関連などを主因に、350 億円の減益を見込みます。

【2024 年 12 月末 バランスシート(P15)】

当四半期末のバランスシートについてご説明します。

24 年 3 月末と比較して、ネット有利子負債は 0.1 兆円増加し、3 兆 5,000 億円となりました。一方、株主資本は 0.1 兆円増加の 7 兆 6,000 億円となりました。この結果、ネット DER は 0.46 倍になりました。

以上をもちまして、私の説明を終わります。